

短期滞在学習者のための会話指導を中心とした 日本語講座のコースデザインと評価 —ソウル大学校学生のための「日本語・日本文化」講座実践報告から—

正宗 鈴香 福留 伸子

要 旨

本稿は、ソウル大学校学生のための2週間の日本語講座を行った結果をもとに短期滞在学習者のための初級のコース運営について考察するものである。本講座は会話学習に焦点が当てられており、日常会話の言語運用力と、言語学習活動を通して日本理解をさせることの2点を目標としてコースデザインされた。2週間を通して日本語TAを導入し、学習者を小グループに分けることによって会話学習を効果的に行うことができた。また、日本文化理解を目的とした活動の一つとして、日韓をテーマとしたディスカッションを日本語TAと行うことにより、お互いの国についての理解を深めることができた。今回の講座内容をつりかえり、課題として残された、会話学習で取り上げる場面の妥当性、日本語TAの指導、発音矯正指導、ディスカッションの方法などの問題点について検討し、よりよいコース運営の可能性をさぐる。

【キーワード】 会話学習 日本語TA 日本文化理解 ディスカッション

A Review of the Japanese Language Conversational Practice Program for Short Stay Students and its Evaluation

Masamune, Suzuka
Fukutome, Nobuko

This paper examines the possibility of an effective short term Japanese language program by reviewing the Two-week Japanese Language Summer Program for Seoul University students. This program was designed to develop daily conversation skills and enhance cross-cultural understanding. With eight teaching assistants, the students were able to practice conversation effectively and get exposed to Japanese ways of thinking. Appropriateness of situational setting, the roles of teaching assistants, effective pronunciation correction and ways of conducting discussions are aspects which need further consideration.

1. はじめに

筑波大学留学生センター及び外国語センターでは、平成6年度から韓国のソウル大学校の学生(以下、学習者)を対象として、日本語学習及び日本文化理解を目的とした2週間の公開講座を行っている。このうち留学生センターは日本語講座、外国語センターは日本文化理解のための体験学習プログラムをそれぞれ担当している。

日本語講座は、教科書を使用した学習活動と、意見交換を重視した自由会話による活動を二つの柱としてデザインされている。また、この二つの活動をより効果的に行うために教師と日本語補助員(以下、日本語TAのチーム・ティーチング方式が導入されている。

本稿では、今年度実施された日本語講座の特徴を述べるとともに、課題として残った学習項目の妥当性、ディスカッションの方法、発音練習の改善の必要性、日本語TAに対する指導などのテーマについて学習者に行ったアンケート調査結果を分析しつつ、今後の可能性について考察する。

2. 日本語講座の特徴と学習目標

本講座は、ソウル大学校語学研究所で文法中心の学習法により初級レベルをほぼ終了した学習者を対象に実施される。今年度は8月7日から8月18日に13名(内、1名都合により三日目に帰国)を受け入れて実施された。カリキュラムは日本で日本語講座を受けるという環境を最大限に利用し、また、2週間という短期の集中講座であることも考慮して、次の2点に目標を絞った。すなわち、(1)実際の場面で使える会話力・日本語運用力の養成、及び(2)日本人との会話を通じて日本理解を深める、である。従って、文法や他の技能に対する指導にはあまり焦点が当てられていない。

第一の目標である「会話力・日本語運用力の養成」の指導には主に筑波大学留学生センター作成の教科書『Situational Functional Japanese(SFJ)』のVol.2を使用した。SFJは、Structure Drills(SD:文法練習)、Conversation Drills(CD:会話練習)、Tasks⁽¹⁾の3部分からなるドリル本(Vol.1-3)と、モデル会話、文法の説明、会話の運び方に関する社会・文化習慣の説明からなるノート(Notes)本(Vol.1-3)とで構成されている。CDでは日常生活の中で遭遇するであろう場面での一般的な会話の流れが紹介されており、学習者がコンテキストの中での単語の選択能力、文の構成能力、日本語運用力をつけるよう期待される。本講座では、会話練習に焦点をあてたCDのみを授業内容とし、適当と思われる9つの課を取り上げた。

第二の目標である「日本人との会話を通じて日本理解を深める」は、午後の授業時間を「自由会話」にして行われた。ここでは日本語TAが学習者の練習を助けるという枠をはずし、同世代の韓国人学生と日本人学生が対等な立場にたって自由に意見交換をすることが最優先された。これには、両国の学生に生の体験を通して相互理解する貴重な機会を与えたいというねらいもあった。

3. 日本語講座コースデザイン

3. 1 学習者

今回の講座に参加した学習者は男性9名、女性4名の計13名であった。このうち、1年から4年までの学

部生が8名、修士生が4名、残りの1名は学部卒業生であった。これらの学生の日本語能力にはかなりのばらつきがあった⁽²⁾。

3. 2 学習活動内容と構成

日本語講座は、以下のように午前は2コマ(1コマ75分)、午後は1コマ実施された日が4日、2コマ実施された日が4日であった。午後1コマの日はそのあと(灰色部分)に体験学習が行われた。

＜表1 日本語講座と体験学習活動のスケジュール表＞

	会 話 練 習		自 由 会 話	
初日			開校式・オリエンテーション・歓迎会	
1日目	L.12道を聞く①	道を聞く②	自己紹介	
2日目	L.9病院に行く①	病院に行く②	ワープロの使い方	
3日目	L.10デパートで①	デパートで②	日本の歌を歌う	カラオケに行く
4日目	L.13喫茶店で話す①	喫茶店で話す②	ディスカッション①	ディスカッション①
土曜日	自 由 行 動			
日曜日	自 由 行 動			
5日目	L.11本屋で①	自己紹介の完成	ディスカッション②	
6日目	L.14忘れ物の問い合わせ①	忘れ物の問い合わせ②	ディスカッション③	
7日目	L.16.18電話をかける①	電話をかける②	スピーチ準備	スピーチワープロ入力
8日目	L.19訪問①	訪問②	スピーチ練習	スピーチ練習
9日目	インタビューテスト		スピーチ発表・閉校式・送別会	

3. 2. 1 会話練習

前述の通り、初日のオリエンテーションと最終日のインタビューテストを除いた8日間の午前中の2コマ(1コマ75分、合計150分)を使って、学習者が日本ですぐ使えるだろう典型的な9場面での会話を練習した。会話練習は自然な流れで日本人ときちんとしたやりとりが出来るようになることを目標としている。毎朝、10～15分の発音練習でウォーミングアップしたあと、会話練習に入った。

会話練習は、一人もしくは二人の学習者と日本語TA一人で小グループを作って行われた。学習者は日本人の日本語の自然な速度、発音、イントネーション、声の高さ、強さ、間のとりかた、あいづちのうち方などとともに、表情、ジェスチャーなどに接しながら、それぞれのペースで十分な練習を行うことができた。また、様々な日本人(日本語TA)の話し方に慣れるために2日おきにグループを組み替えた。ただし、日本語TAの8名という数は当初予定していた学習者19名に対して設定されたものであり、学習者の減少の結果、このような恵まれた環境で練習を行うことができたということをつけ加えておく。

SFJのVol.2を中心に学習活動が行われたことは先に述べた通りであるが、学習者が日本滞在中に遭遇

するであろう場面をその必要に応じて導入することを心がけたため、課の進め方はSFJで提示されている順序には必ずしも従わなかった。このようなことをふまえてコースデザインされた各課の活動目標は表2の通りである。

＜表2 会話練習の実施日と各課の活動目標＞

実施日	課	活 動 目 標
1日目	12課「道を聞く」	路上で道を聞いたり、電話で目的地までの行き方などを聞く。また、「あいづち」の打ち方や内容の確認のし方、分からなかった時の上手な聞き返しなどができるようになる。
2日目	9課「病院で」	体の部位の名称を覚え、様々な痛みや不快症状について訴えられるようになる。
3日目	10課「デパートで」	売場への行き方、他の商品があるかどうかの尋ね方、勧められたときの断り方、自然な会話の打ち切りなどができるようになる。
4日目	13課「喫茶店で話す」	日本人に紹介されたときの挨拶のし方、好きな食べ物や趣味といった短い会話、ほめられたときの謙遜のし方などができるようになる。
5日目	11課 ①「本屋で」 ②「自己紹介の書き方」	①本屋に行って探している本があるかどうか店員に聞いたり、本を注文したりする。一般的な日本の本屋の陳列のし方や奥付けなどの紹介もする。 ②語学研修で日本に来た場合、どのような自己紹介が適切かを考えさせ、1日目に行った自己紹介を完成させる。
6日目	4課 「忘れ物の問い合わせ」	忘れ物の問い合わせや、自分の持ち物や行動について説明することができる。
7日目	16課「電話をかける(2)」 18課「電話をかける(3)」	電話でタクシーを呼び、乗車してから道案内をして目的地まで行くことができる。友達や先生宅に電話をかけて伝言を頼む。
8日目	19課「訪問」	ビデオで日本の家庭の様子を見て日韓の習慣の違いを確認する。日本人の家庭を訪問し辞去するまでの自然な会話ができる。

3. 2. 2 自由会話

自由会話の前半の4コマは、自己紹介、ワープロの使い方、日本の歌を歌う、カラオケに行くという

活動内容で進められた。これは学習者と日本語T Aが親しくなり、コミュニケーションが上手にとれるような関係になる機会を早い時点で与えることを考慮したものである。後半はお互いの国を知るためのディスカッションと閉講式の前に行うスピーチの準備・練習をそれぞれ4コマ行った。自由会話の活動内容については表3の通りである。この自由会話の授業の最初の15分ほどを使って、宿題の答え合わせを行った。宿題についての詳しい内容は後述する。

〈表3 自由会話の実施曜日と活動内容〉

実施日	課	活 動 目 標
1日目	自己紹介	クラス全体の前で簡単な自己紹介を日本にきた動機を入れて話す。
2日目	ワープロの使い方	コンピュータ上でワープロの使い方を理解する。日本語T Aの日本語での説明を受けながら前日に行った「自己紹介」をローマ字で入力する。この活動は発音の正確さが表記の間違いに結びつくので、自分の正確な発音を発見するねらいもあった。
3日目	歌を歌う	「愛は勝つ(KAN)」を課題曲とし、歌詞のディクテーションを行い、その意味を理解させた上で歌の練習をする。後半は日本語T Aが準備した歌をグループに分かれて練習する。
	カラオケに行く	実際にカラオケへ行き、カラオケを実体験するとともに習った歌を歌ったり、韓国語の歌を歌ったりの交歓をする。
4日目	ディスカッション①	「韓国学生が日本人学生に聞きたいこと」
	ディスカッション①	ディスカッションの続き・ディスカッションの報告をする。
5日目	ディスカッション②	「日本人学生が韓国学生に聞きたいこと。」
6日目	ディスカッション③	「日韓双方の学生がコース開始前に抱いていた相手国に対する印象とその後のイメージの変化」
7日目	スピーチ原稿作り①	閉講式の前にするスピーチ準備：「このコースを終えて」という題で2分以内のスピーチの原稿を作る。スピーチにはディスカッションの内容で印象に残ったことを一つ入れることを条件とした。
	スピーチ原稿作り②	完成した原稿をワープロに入力する。
9日目	スピーチ練習(2コマ)	原稿を見ずにスピーチすることを目標とし、日本語T Aと共にイントネーション、発音等に気を付けながら練習する。

ディスカッションの活動方法：

ディスカッション①

話 題：「韓国人学生が日本人学生に聞きたいこと」

事前準備：韓国人学生に日本人学生に聞きたい具体的な質問項目を各自2つ以上書いて提出してもらった。それをもとに話題に共通性のあるもの、日本語能力のレベルなどを考慮して学習者3人と日本語T A 2人の5人を一組にしたグループ4組をつくった。

ディスカッション活動：学習者に自分の出した質問を学習者に提起させて全員でそれについて話し合わせた。

報 告：ディスカッション後、自分の質問に対する答えや意見をクラス全体の前で報告させた。なお、この報告をまとめる時間として、報告の前に20分間与えた。

ディスカッション②

話 題：「日本人学生が韓国人学生に聞きたいこと」

事前準備：韓国人学生に聞きたい具体的な質問項目を日本語T Aに提出してもらった。話題性とその話題を話し合うために必要な日本語レベルを考慮し、日本語T A 2人ずつのグループを4つ作った。学習者にグループごとの質問項目のリストの中から答えたい質問を選ばせた。学習者が集中した質問があったので、質問を移動して各グループの人数を調整した。学習者と日本語T Aに週末を使って自分の意見が言えるようにしてくるよう指示を与えた。

ディスカッション活動：日本人の質問に対して学習者がまず意見を述べてから、全員でそれについてディスカッションを行った。

報 告：ディスカッション後、日本語T Aに話し合った内容を全員の前で報告させた。日本語T Aに報告をさせたねらいは、学習者が正確に意見を伝え、それを日本語T Aが発展させて内容のあるディスカッションをさせることにあった。

ディスカッション③

話 題：「日韓双方の学生がコース開始前に抱いていた相手国に対する印象とその後のイメージの変化」
具体的な質問項目は以下の4点であった。

- ・来日する前の日本のイメージはどんなものでしたか。
- ・来日して日本に対するイメージが変わりましたか。それはどんなことですか。
- ・日本についてもっと知りたいことはありますか。
- ・今後お互いの国の関係がどのようになりたいと思いますか。そのために自分がしたいことは何ですか。

また、日本語T Aには、次の話題について考えてこさせるようにした。

- ・日本語講座が始まる前に韓国にもっていたイメージは何ですか。
- ・韓国人学生と接して韓国のイメージが変わったことはありますか。

- ・韓国についてもっと知りたいことは何ですか。
- ・今後お互いの国の関係がどうなったらいいか、そのためにどんなことをしたいですか。

この話題は、前の2回のディスカッションで話し合われたことをもとに、今まで思っていた日本と実際に自分の目で見た日本との間に違いがなかったかなどを考えさせるためのものであった。また、両国の学生がお互いの国に対する理解を深め、自分たちの国の将来について考えるきっかけを与えることを目的とした。

事前準備：学習者の日本語レベルはあまり考慮せず、2回のディスカッションで同じグループになっていない者同士を組ませた。

ディスカッション活動：全員が意見を述べてディスカッションを進める。

報 告：特に行わなかった。

3. 3 自己目標の設定

2週間という短い期間にある程度の結果を出すには、学習者の積極的な参加と自主的学習を促すことが必要になる。その手段として自己目標を立てさせ、これによって学習の目標をはっきり認識させて学習意欲を高めようとした。日本語T Aと相談しながら一日目に二週間の自己目標を、二週目のはじめに達成度を自己評価させ、残りの一週間の目標を設定させた。

3. 4 宿題(聴解練習)

教室での活動は会話練習が中心なので復習を兼ねて聴解練習の宿題を課した。S F Jに付随しているModel Conversation Check(MC Check)のテープとカセットデッキを各学習者に貸与し、その日学習した課のMC Checkをチェックシートに記入させて次の日に提出させた。MC Checkは二部からなっており、一部は会話を聞いて内容と一致しているものを選択させる質問が5問、二部はイントネーションによる意味の違いや間違いやすい表現などを混ぜた質問が5問出されている。提出されたチェックシートは日本語T Aが採点し、各学習者の理解度を確認した。解説は教師が自由会話に入る前に15分ほど行った。

3. 5 個人カルテの記録

日本語T Aには毎日自分が担当した学習者の学習状況を個人カルテに記入させた。個人カルテには二つの欄が設けられ、自己目標を記入する欄と、毎日の学習状況を記入する欄が設けられていた。自己目標を記入する目的は、この講座での学生の自己目標をはっきりさせることによって学習者の意識をはっきりさせるとともに、日本語T Aが学習者の問題点を把握するためであった。今回は日本語T Aが二日おきに変わったのでその連絡ノートとしても活用された。

3. 6 評価と方法

評価は、学習者の日本語能力にばらつきがあることもあり、日本語能力に対する絶対評価ではなく、本講座での努力とその成果に対して行われた。方法としては、(1)インタビューテスト：①練習した二つの場面でのロールプレイ②自己紹介③質問に対して自分の意見を言う (2)スピーチ：準備・内容・発表のし方 (3)クラスでの評価：授業の参加度・正確さ・伸び、の3点について点数化し、総合的に判断した。インタビューテストは教師と学習者の1対1で10分ほど行われ、同時に他の教師2人が離れた場所でモニターしながら採点した。

3. 7 ミーティング

毎日授業後に1時間ほどのミーティングを教師と日本語T Aが集まって実施した。各学習者の学習状況の報告と教師からの注意事項や次の日の活動内容の確認を中心に行われた。グループの組み替えと日本語T Aの担当もこの時間を使って協議した。

4. 日本語T Aとその役割

4. 1 日本語T A

日本語T Aは筑波大学の3、4年の学生と研究生で、女性6名、男性2名の計8名であった。そのうちの1名を除いては全員日本語・日本文化学類であった。

日本語T Aには講座が始まる前にオリエンテーションを2回行った。初回は参加希望者全員に本講座の目標、対象学習者、日程、拘束時間などを説明し、日本語T Aをする抱負を書いてもらった。2回目は、選抜された8名を集め、教科書の配布、授業方針、「会話練習」で取り上げる課、「自由会話」で取り上げる話題について考えておくこと、などの説明をつけ加えた。選抜にあたっては、日本語指導経験の有無で選ぶのではなく、自由会話で有益なディスカッションを行うためにも違う分野の学生を選ぶように心がけた。

日本語T Aには原則として、午前、午後の授業時間とクラス後のミーティング、開講式と閉講式に参加してもらった。

4. 2 会話練習での日本語T Aの役割

教師がその課の目的と各文型の簡単な説明、練習を行ってから、日本語T Aが基本文型練習、口慣らし練習、代入練習、応答練習、などを教科書にそって進めていった。基本的にはこのパターンで授業が進められ、各授業の最後にはその課の最終目標となる「状況に応じた行動練習(ロールプレイ)」が課題として与えられた。ロールプレイによっては全員の前で発表させ、それをビデオ撮影したものがあるが、ロールプレイの発表は学習者だけでなく日本語T Aにとっても自分の行った練習の成果が問われることになり、真剣に練習に取り組む動機付けとなったようである。

また、学習者間の日本語能力に開きがあったため、全員に同じ活動をさせるには困難が伴った。従っ

で、日本語T Aに、日本語能力が高い学生には教師が指示した練習項目を加え、日本語能力の低い学生には基本文型だけを練習させるといったそれぞれの学習者のレベルにあった練習を行うようにさせた。

4. 3 自由会話での日本語T Aの役割

「自由会話」は同世代の韓国人学生と日本人学生が対等な立場にたって本音で意見交換をすることに焦点を絞ったので、教師は、活動内容、ディスカッションの話題の設定、グループ分けなどの事前準備をするにとどまった。日本語T Aには学習者と積極的に意見交換を行い話題を発展させるよう促し、辞書や筆談といった様々なコミュニケーション・ストラテジーを用いながら与えられた課題について話し合うようにさせた。

5. 結果と考察

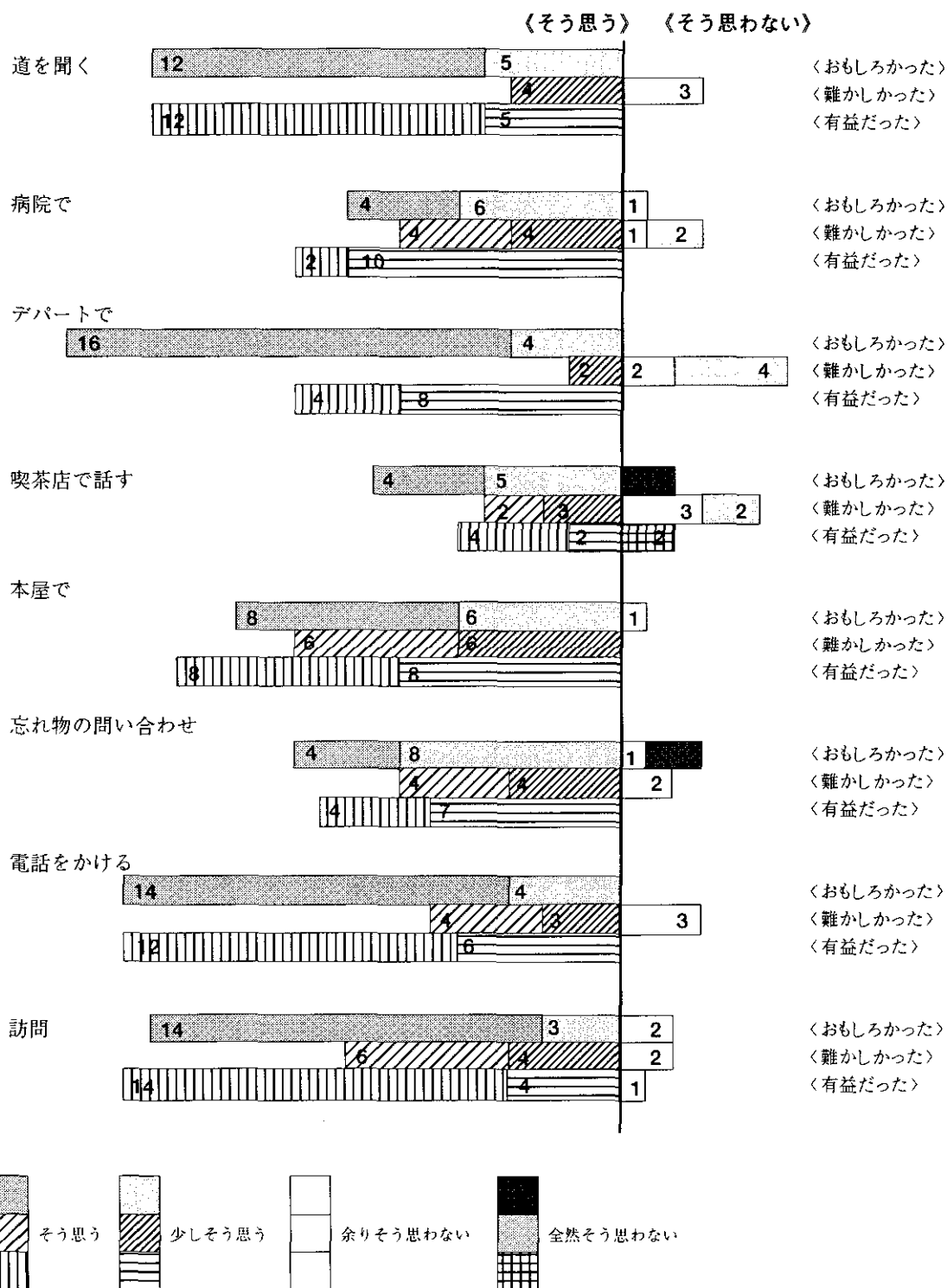
5. 1 アンケート調査とその結果

今年度の日本語講座の評価と来年度への提言をしてもらうために講座終了日に学習者にアンケートを行った。質問は韓国語訳によるもので、意見等の記述は韓国語または日本語どちらでもよいとした。アンケート項目は下記の7項目に分けて質問した。

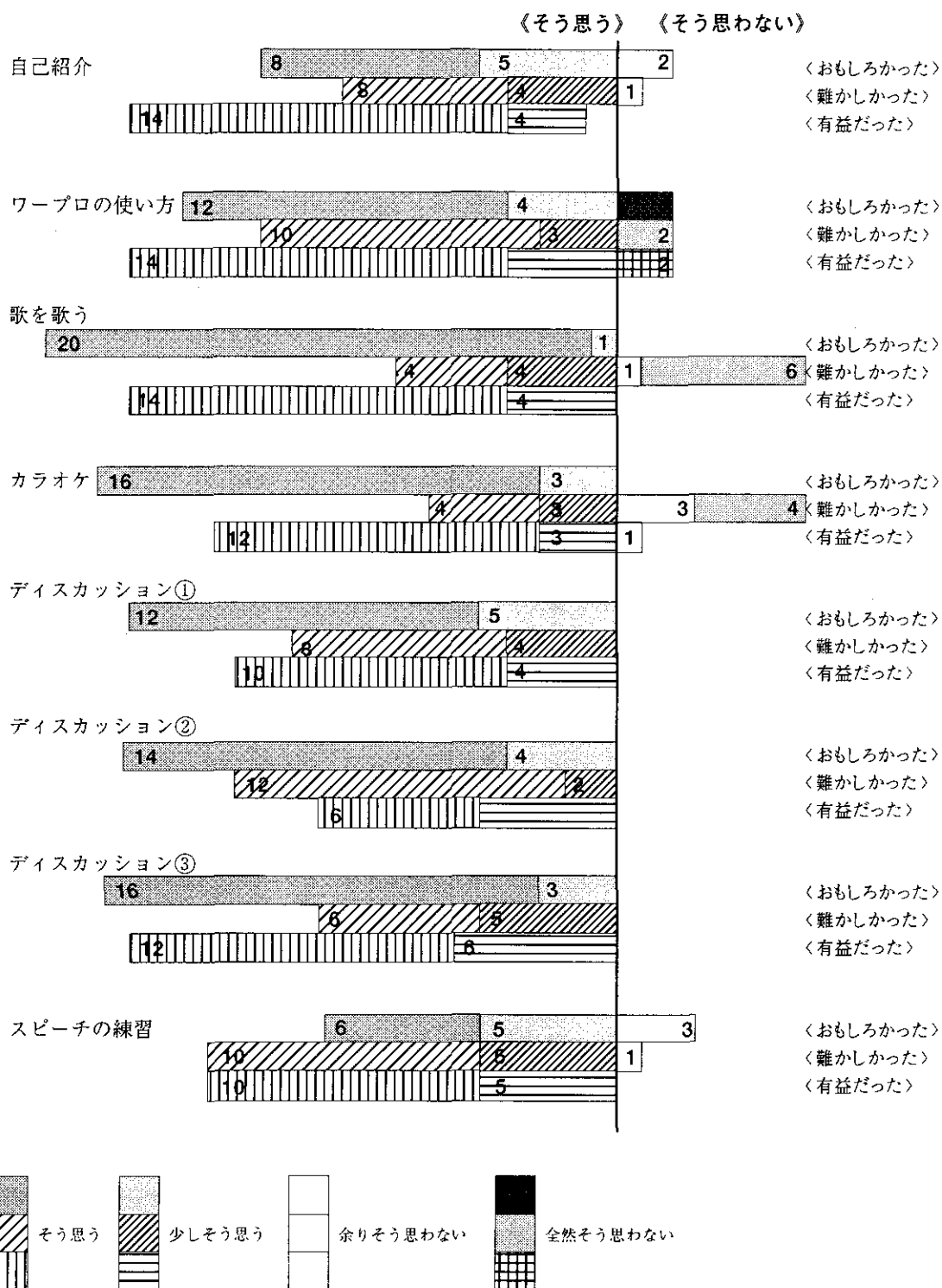
- (1)コース全体の構成について
- (2)グループ分けについて
- (3)発音練習について
- (4)会話練習のクラスについて
- (5)応用練習のクラスについて
- (6)自習にかかる時間について
- (7)コースに対する感想、意見³⁾

評価法は、5：そう思う、4：少しそう思う、3：どちらとも思わない、2：あまりそう思わない、1：全然そう思わないの5段階とした。本稿では、会話練習と自由会話の領域を、5を2点、4を1点、3を0点、2を-1点、1を-2点と計算し、課及びテーマごとの〈おもしろさ〉〈難易度〉〈有益さ〉を図1、図2に示した。また、このコースに対する評価も図3に示す。

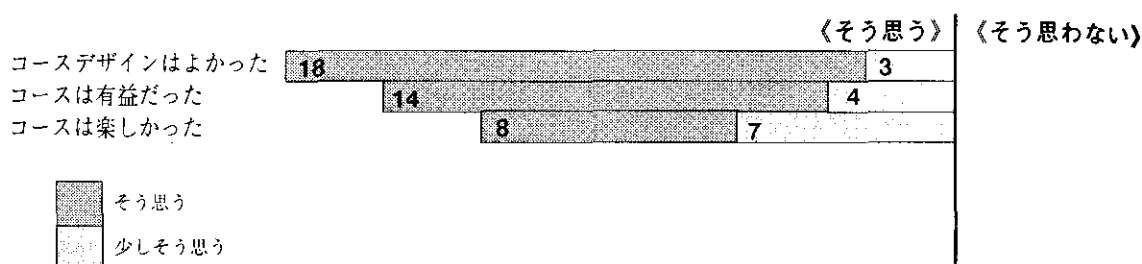
〈図1 会話練習における学習者の各テーマの評定結果（おもしろさ・難易度・有益さ N=12）



〈図2 自由会話における学習者の各テーマの評定結果（おもしろさ・難易度・有益さ N=12）〉



〈図3 コース全体への学習者の評価結果 N=12〉



5. 2 今年度の結果と今後の学習活動の可能性

全体的な結果をみると、日本語講座に対する学習者の評価は高かったと言える。日本語の会話力が上達したという他に、日本人や日本に対して親近感がもてたということや日本人の考え方を直接聞き、意見交換する機会に恵まれたということが大きいようである。

以下に今年度の日本語講座の分析をし、課題となった問題点(1)から(6)を取りあげ、それらの学習活動の可能性を考えてみる。

(1) 会話練習での課の選択の妥当性

学習者にはSFJ DrillのVol.2を来日前に購入させた。これは、本教材で扱われている文法項目がほぼ既習範囲内であろうということと、日本で学習者が遭遇するであろう場面が豊富に盛り込まれているという2点から決定されたものである。しかし、短期滞在学習者が日本で遭遇するであろう場面を優先的に導入するという考え方から、Vol.2のL.15の「(資料室で)本を借りる」を除き、新たにVol.3のL.18(電話で伝言をする)、L.19(訪問)を加えるといった入れ替えを行った。

このような入れ替えにより、より実践的な会話練習が可能になったが、アンケートによると、L.13「喫茶店で話す」の活動に関しては全体的に評価は低く、〈役にたった〉と感じた学生は4名と少なかった。この課は初対面の日本人との典型的な会話のはじめ方を練習することが目的で、日本語を勉強している期間、趣味や食べ物といったものが話題となっている。しかし、アンケートには「日本で毎日同じT.A.にしか会わないので特に練習する必要がある表現はなかった」とあり、学習者はこの時点では日本人と新しく知り合いになる機会がほとんどなかったことがうかがえる。このようなことから、学習者はこの活動の必要性が感じられなかったのではないと思われる。

また韓国では初対面の人との決まり切った会話のはじめ方というものが特別になく、日本人ほど話題を慎重に選ぶといった習慣がないように思われる。この習慣の相違のために、特に興味もない話題で話を始めることは韓国人学習者には無意味だと捉えられたのかもしれない。今後、この課を取り上げる場合には、日韓の会話の始め方や進め方に相違があることをしっかりと意識させ、その相違の文化的側面を考えさせた上で練習を行うことが必要であると思われる。

また、今回はSFJのVol.2、3から課を取り上げたが、学習者が必要とする場面での会話に関しては、

Vol. 1 からも積極的に取り入れてもいいのではないかと思われた。学習者からも「デパートで」の会話練習で「食堂で注文するという練習があってもよかった」という意見がでている。追加練習としていくつかの活動を加えた経験からも、他の課の活用性を検討し、授業活動を発展させるといった工夫も必要ではないかと思われた。

(2) 自由会話の活動内容について

自由会話の「自己紹介」「ワープロの使い方」「日本の歌を歌う」に関しては学習者の関心の有無の差はあったようだが、全体としては評価はよかった。(図2)

日本語講座の特徴の一つは、ディスカッションを組み入れたことだったと言える。日本語学習活動としてのディスカッションを成功させるためには 1)学習者にとって興味のある話題の選択 2)話題を展開させていくための必要な知識があるかどうか 3)学習者に必要な語彙及び表現をいかに準備させるか、の3点が考慮されなければならない。

話題の選択は、学習者と日本語T Aがそれぞれ相手の国のことに関して聞きたいことを話題とする方法をとった。従って、ディスカッションを行う動機は十分に与えられたといってよいだろう。最後のディスカッションでは、まとめの意味で話題をこちらから提起した。

第一回目のディスカッションのためにソウル大学学生から出された話題としては以下のようなものがあった。

<韓国人学生が日本人学生に聞きたいこと>

- ・日本人の普遍的特徴は何ですか。
- ・2002年度のワールドカップについてどう思いますか。
- ・日本人は天皇をどう思っていますか。
- ・日本の若い人たちが韓国についてどのくらい知っているか聞きたいです。
- ・日本の学生は死後の世界をどう思っていますか。
- ・日本の漫画の暴力性についてどう思いますか。
- ・将来何になりたいですか。日本の若い人の将来が日本の将来ですから、日本の将来が分かる機会にしたいです。
- ・韓国の大学生の中には学生運動をしている人がいますが、日本にも学生運動をする学生がいますか。
- ・日本の言論についてどう思いますか。
- ・日本についてどう思いますか。
- ・韓国についてどう思いますか。
- ・日本の大学生はどんなことに興味をもっていますか。
- ・日本の子どもはいつも集団でいるのをアメリカで見たのですが、それはどうしてですか。
- ・個人はあまり豊かではないと聞いているが日本の国が豊かであることにどう思いますか。
- ・現代の若者たちの結婚観はどういうものですか。

- ・現代の日本人が一番重視していること、例えば、生活目的は何ですか。それはどうしてですか。
- ・日本の受験について皆さんの場合どうだったか教えてください。大学に入った後どう状況が変わりましたか。

第二回のディスカッションの話題として、日本語T Aから韓国人学生に出された質問のなかで話題として取り上げられたものは以下の通りである。

<日本人学生が韓国人学生に聞きたいこと>

- ・日韓世論調査(朝日新聞平成7年7月29日掲載)についてどう思いますか。
- ・韓国で現在一番大きな社会問題は何ですか。例えば、大学の進学率、就職など。
- ・日本人についてどう思いますか。
- ・徴兵に行った人はいますか。行った人がいたらどうだったか教えてください。
- ・大学を卒業して将来どんな生活をしたいと思っていますか。理想の人生、生活はどんなものですか。
- ・皆さんは韓国で一番優秀と言われているソウル大学の学生ですが、将来出世して偉くなりたいと思っていますか。
- ・小学校からの学校教育で日本についてどんなことを勉強しましたか。
- ・なぜ日本語を勉強しようと思ったのですか。

話題によってはディスカッションをするのに日本語能力が伴うかどうか心配されるものもあったが、話したいという動機を失わせないためにそれらを尊重した。

次に、「話題を展開させるために知識をどう準備させるか」という点だが、基本的には各自がそれまでに持っている知識の範囲内でディスカッションを行わせた。しかし、韓国人学生が日韓の歴史的関係や社会情勢について興味があるのに対し、日本語T Aは、それらに関する知識や関心が希薄だったために話題が展開できず、表面的な内容に止まってしまったグループも見られた。日本語T Aと学習者がディスカッションを深めるために必要な情報を調べておくことができればより充実したものとなったであろう。2週間の短期講座の中でディスカッションを行う前の準備作業をいかに授業の中に取り入れるか検討する余地がある。

三点目の「日本語能力への配慮」についてであるが、グループ分けを行う際に、日本語能力のレベルの違う学習者を混ぜるように努めた。これは、日本語能力の低い学習者が日本語能力の足りない部分を他の学習者に補ってもらうことによって話題についていけるようにすることをねらいとしたものであった。しかし、結果的には、レベルを混ぜたために日本語能力の高い学習者は、話題を深めることができずに終わってしまい、日本語レベルの低い学習者は自力で質問をし理解するという機会が失われてしまった感がある。実際、日本語レベルを考慮しないでグループ分けを行ったディスカッション③では、結果的にレベルがだいたい同じだったグループができ、ここでは「いつもより活発に話し合いができた。」という日本語T Aの感想が出されている。これらのことから、ディスカッションを行うときは日本語能力のレベルは出来るだけ統一してグループ分けを行った方がよいことが分かった。

また、日本語力の低かった学習者の一人は「自分の日本語能力が未熟だったために言いたいことが言え

ずにもどかしく感じたが、ディスカッションは貴重な経験だった」とコメントしている。日本語能力の低い学習者にディスカッションを効率よく行わせるためには、語彙リストを作成させ語彙の積み上げをし、それらを繰り返し使わせながら参加させるなどの工夫が必要であろう。

学習者からはディスカッションに関する意見として、以下のような意見が多く出された。

- ・日本人の考え方をたくさん学んだ
- ・韓国との歴史に対して日本人がもっている考えや、普通日本人が考えている未来像、現在の生活と問題点など多くを話すことができてよかった。
- ・日本の若者から直接日本に対する評価をきけてよかった。
- ・相互の国に対するイメージを話す時間が足りなくて日本人が韓国に対してもっているイメージをきけなかった。もっとたくさん時間があればいいと思う。

この他、最終日のスピーチの中でもディスカッションを通して日本人に対する理解が進んだことがいくつもの例をあげて述べられていた。お互いの国の大学生がどのようなことに興味をもち、どのような考えを持っているかを知るという意味でこの活動は学習者の関心を引き出し、大いに意味のある活動だったといえるだろう。

(3) 日本語TAに対する指導

日本語TAには、学習活動の目的をきちんと理解させてから練習を行わせることが重要であり、毎回のミーティングではそれらについても指導するようにした。

また、今回のように教えた経験を持たない学生に日本語TAとして参加してもらった場合の、日本語TAの効果的な補助的役割とは何かについて考えておく必要がある。具体的には、日本語TAの役割は、口頭練習を行うことであり、その際に必要となる発音・イントネーションの指導や代入練習などで出てくる語彙や簡単な表現の意味などを説明するといったことが考えられる。

今回、日本語TAは数人の学習者を相手に授業のほとんどの練習活動をまかされてしまったので戸惑いも多かったようである。授業中に日本語TAを指導することをできるだけ避けるためにも、学習者と日本語TAの立場にたったシュミレーションを事前に行う方法も一案として考えられる。教師が様々な学習者を扮し、それらの場合にどのように対応していくかを話し合うことも効果があるのではないだろうか。

(4) 発音練習の強化と指導方法

発音矯正についてはその必要性を感じた学生が多かった。今回の目的は、韓国人が習得困難とされている語頭の濁音などをリストアップして練習させることによって、学習者に自分の発音やイントネーションの癖に気づかせることにあった。そういった意味では効果が見られ、「今まではその重要性に気づいていなかったが、(コース中に)その重要性に気づいた」という学習者もいた。また、発音練習を毎日10分間日本語TAと行ったが、練習時間についても学習者6人が10分の練習は適当でなく、『適当な時間はどの

くらいだと思いますか』という質問に対して、5分が1名、15分が1名、20分が3名という結果がでている。「十分な発音矯正をしてほしい」「具体的に発音練習のプログラムを開発してほしい」「授業中にそのつど訂正してほしい」「テープに吹き込んでいつでも練習できるようにしてほしい」といった意見が出され、意識化を目的とした練習だけではなく、さらに発音矯正効果のある練習が強く望まれていることが分かった。

発音練習では正確に発音ができても意見を述べたり会話をしている時やワープロに入力した時などは音が不正確になる学習者が目立ち、韓国語を母語とする日本語学習者のための音声学的見地からの具体的な練習内容や矯正方法についての研究が待たれる次第である。

(5) 自己目標

設定された自己目標をみると、一週目の自己目標を引き続き二週目の自己目標にする学生が数名いる一方で、日本語でコミュニケーションをとるときには、正確な発音、イントネーション、速さ、語彙の選びかた、聞き取りなどが不可欠であることに気づき、それらの強化を自己目標にする学生も多く見られた。学習者が本講座で目標としたものを一週目と二週目に分けて表4に列記しておく。学生A～Lは、事前テストの成績が低かった学生の順である。

(6) 実際の場面で使う意義

学習した日本語で実際に日本人とコミュニケーションをとることは意義深い。学習者は学習した日本語が通用するものであることを確信し、この経験の積み重ねを通して自分の言葉として使えるようになるのである。アンケートに書かれたコメントには、

- ・韓国では経験したり、学んだりできないことにもっと時間をかけてほしい
- ・実際の地図をもって自分が行きたい所へ訪ねて行くという演習があったらよかった。
- ・テープや日本語TAの会話を何度も聞くのもいいが実際に経験するといいと思う
- ・午後に実際日本人に道を聞くのがいいと思う
- ・午後(体験学習で)直接デパートへ行行って実習できたのがよかった
- ・体験学習時間に実際に喫茶店にいけたらよかった
- ・実際に電話をかける練習が気に入った

といったものがあげられ、実際の場面で使う機会を積極的に与えてほしいと感じている学生が多いことが分かった。学習効果を上げるためにも、日本語講座と体験学習プログラムを独立させずに、二つの講座をできる限り連携させて、日本語を使つてのコミュニケーションを行う場が提供できるように、時期、内容等を調整できたら理想的といえるだろう。

〈表4 一週間と二週間の自己目標の比較〉

学生	一週目の自己目標	二週目の自己目標
A	簡単な日常会話ができるようになる。 発音を正しく覚える。	新しい単語を習う。 会話が上手になる。 日本の文化を経験する。
B	日常会話を習う。	このクラスで習うことを覚える。 日本人とたくさん話す。
C	日本人と直接話をして、会話に慣れる。 日本の人と話して文化を理解する。 単語が分からないので単語を覚える。	会話がもっと上手になる。
D	どんな場面でも会話ができるようになる。	先週は身ぶり手振りでなんとかやりとりをしていたが、今週はそういった助けを借りず、 正確な表現を使って会話ができるようになる。
E	考え、言いたい事が少し言えるようになる。 相手が言っていることが少し理解できるようになる。	単語を知っていても発音が難しくて分からないので、分かるようになる。 単語数が少ないので単語を覚える。 日本人が速く話しても聞き取れるようになる。
F	日本人が話していることを大まかに理解できるようになる。 言いたいことが少し話せるようになる。	難しい言葉を除けば、日本人の話が半分ぐらい分かるようになった。今週は7、8割ぐらい理解できるようになり、自分の話したいことが言えるようになる。
G	聞き取りが苦手なので、相手の言っていることの半分は理解できるようになる。	単語が足りないことが分かったので、覚える。 先週より聞き取りができるようになる。
H	高校の時に勉強していた日本語を思い出したい。 日本人と韓国人の生活の違いを感じたい。	イントネーションを直す。 単語をもっとたくさん覚える。
I	日常会話を通して知識を得る。 日本語で思うことを表現する。	日本語の漢字の読みができるようになる。
J	日常会話での会話を上達させる。	発音を直す。 正確に聞き取りができるようになる。
K	日常生活に必要なことを正確に言えるようになる。 日本人と文化、政治、勉強などのことについて深く話しをする。	単語数を増やす。
L	ニュースやドラマで言っていることが分かるようになる。 日常会話を正確に言えるようになる。	聞き取りができないことが分かったのでそれができるようになる。 長い文章が話せるようになる。

6. むすび

短期滞在者のための日本語コースは、大学や企業研修の分野でも需要が高まってきている。その効果的運営のための試みの一つとして、授業の中に日本語T Aを導入することが第一回目から行われてきた。2回を通してみて、学習者と経験や年齢を等しくする者を学習の援助者としてコースに導入することは大いに効果をあげていると言える。具体的には、教師1名でクラスを運営するよりも学習者1人あたりの練習量が圧倒的に多いこと、対象言語のネイティブスピーカーと直接的に会話練習ができ、自分の日本語を即座にモニターできることが学習意欲を高めること、言語活動の主要な目的である相互理解が積

極的に押し進められることで満足度が高められることがあげられる。

また、場面にそった会話学習と、自分の意見を言う自由会話学習に分けたことによってコース全体にめりはりがついたように思われる。「日本語学習」と「会話を通じてお互いを理解する」という二つの視点からコースデザインしたことによって、学習者がこの2週間の講座を受講するにあたって期待したものにかかなりの部分で答えられたのではないかと思う。

しかし、学習活動の中には一部学習者の言語能力を越えてしまっているものがあり、授業を効率よく行うためには、コース参加前の学習者のスクリーニングの方法を検討しなければならない。

本講座のような一つの文化圏からの学習者に対して行われる日本語学習・日本文化理解の講座において活動内容を決める判断基準となる研究と、日本語T Aを導入したこのような形のコースデザインのあり方についての研究を今後続けていくことが、より効果的で有益なコースデザインのために必要であろう。

注

- (1) Taskは、「文法練習」、「会話練習」の中で学んだ知識を、実際の場面で使えるようにするための橋渡しを行うもの(阿久津・酒井、1992)である。
- (2) 学習者には事前にテストをソウルで5月に実施した。テストはSFJのVol. 1 (L.1-8)終了時に筑波大学で行っているものを使用した。このテストを行った結果、103点中、16点から93点までの点数の開きがあり、事前の自己申告アンケートでは、日本語学習期間も1ヶ年～3年と差があった。
- (3) 実施したアンケートを掲載する。

参考文献

1. 阿久津 智・酒井たか子 (1992)「新開発教材におけるタスク作成(1)」『筑波大学留学センター日本語教育論集』7: 65-102
2. 梅田博之 (1994)「母語で変わる教え方のポイントー韓国語」『月刊日本語』8 アルク社
3. 国際交流基金 日本語国際センター (1988)「教師用日本語教育ハンドブック⑥ー発音」凡人社
4. 筑波ランゲージグループ (1994)「Situational Functional Japanese Vol. 1-3」凡人社
5. 明治書院 (1992)「特集ー技術者のための日本語教育」『日本語学』11

名前 _____

これは、日本語授業に対するアンケートです。設問を読んで5～1の一番ふさわしい番号に○をつけてください。また、意見・感想もかいてください。韓国語でかいても構いません。

- 5 そう思う
 4 すこしそう思う
 3 どちらとも言えない
 2 あまりそう思わない
 1 ぜんぜんそう思わない

1. 日本語コース全体について

- 1) コースは全体としてよく構成されている。 5 4 3 2 1
 2) 会話中心のコースは適切であった。 5 4 3 2 1
 3) 会話以外に、もっとやりたかったもの。

1 文法

2 読み

3 書き

4 聞き

5 その他()

- 4-1) レベルはちょうどよかった 5 4 3 2 1

- 4-2) 2または1をえらんだ人はどちらですか。○をつけてください。

(むずかしい・やさしい)

- 5-1) 授業の進度はちょうどよかった。 5 4 3 2 1

- 5-2) 2または1をえらんだ人は、どちらですか。○をつけてください。

(はやい・おそい)

- 6-1) 2週間という長さはちょうどよかった。 5 4 3 2 1

- 6-2) 2または1をえらんだ人はどのくらいの長さがいいですか。

1 4週間

2 3週間

3 1週間

4 その他()

- 7-1) 1日に3、4クラスの授業はちょうどよかった 5 4 3 2 1

7-2) 2または1をえらんだ人はどのくらいがいいですか。

- 1 1クラス
- 2 2クラス
- 3 3クラス
- 4 その他()

2. 授業のときのグループ分けについて

- | | | | | | |
|-------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1) 途中で学生のメンバーを替えたのはよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) グループのメンバーは日本語能力が同じ程度がよい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 日本語のT Aは2週間同じほうがよい。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) その他、グループ分けについての意見を書いてください。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

3. 発音の練習時間について

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1) 発音練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) T Aの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3-1) 毎朝10分の練習時間はちょうどよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3-2) 2または1をえらんだ人はどのくらいの時間がいいですか。 | | | | | |

- 1 5分
- 2 15分
- 3 20分
- 4 その他()

4) その他、発音の練習について意見を書いてください。

4. 午前の会話ドリルクラスについて

1日目 「道をきく」

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) T Aの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

2日目 「病院で」

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) ビデオは会話を理解するのに役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) TAの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

3日目 「デパートで」

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) ビデオは会話を理解するのに役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) TAの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

4日目 「喫茶店で話す」

- | | | | | | |
|------------------------|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) ビデオは会話を理解するのに役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) TAの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 8) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

5日目－1 「本屋で」

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) ビデオは会話を理解するのに役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) TAの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

5日目－2 「自己紹介の仕方」

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) TAの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

6日目 「忘れ物の問い合わせ」

- | | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) ビデオは会話を理解するのに役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) T Aの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

7日目 「電話をかける」

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) ビデオは会話を理解するのに役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) T Aの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

8日目 「訪問」

- | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1) おもしろかった。興味があった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2) 難しかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3) 役に立ったと思う。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4) クラスはよく構成されていた。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5) ビデオは会話を理解するのに役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6) 先生の説明はよく分かった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7) T Aの練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8) グループ練習は役に立った。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9) 先生の練習のさせ方はよかった。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10) クラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか、またどうしてほしかったですか。 | | | | | |

5. 午後のクラスについて

1 日目－自己紹介

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。	5	4	3	2	1
4) 日本語T Aの説明はよくわかった。	5	4	3	2	1

2 日目－ワープロの使い方

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。	5	4	3	2	1
4) 日本語T Aの説明はよくわかった。	5	4	3	2	1

3 日目－日本の歌の練習

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。	5	4	3	2	1
4) 日本語T Aの説明はよくわかった	5	4	3	2	1

3 日目－カラオケ

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。	5	4	3	2	1
4) 日本語T Aの説明はよくわかった。	5	4	3	2	1

7、8 日目－スピーチ練習

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。	5	4	3	2	1
4) 日本語T Aの説明はよくわかった。	5	4	3	2	1

その他午後の活動について意見をかいてください。どんな点がよかったですか、また悪かったですか、ほかにどんなことをしたかったですか。

6. ディスカッションの時間について

1 回目－日本の学生に聞きたいこと

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。	5	4	3	2	1
4) 全体の授業の進め方はよかった。	5	4	3	2	1
5) 日本語T Aの対応はよかった。	5	4	3	2	1
6) 学生のグループわけは適当だった。	5	4	3	2	1

2 回目－韓国の学生に聞きたいこと

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。					
4) 全体の授業の進め方はよかった。	5	4	3	2	1
5) 日本語T Aの対応はよかった。	5	4	3	2	1
6) 学生のグループわけは適当だった。	5	4	3	2	1

3 回目－お互いの国のイメージ

1) おもしろかった。興味があった。	5	4	3	2	1
2) 難しかった。	5	4	3	2	1
3) 役に立ったと思う。	5	4	3	2	1
4) 全体の授業の進め方はよかった。	5	4	3	2	1
5) 日本語T Aの対応はよかった。	5	4	3	2	1
6) 学生のグループわけは適当だった。	5	4	3	2	1

その他の、ディスカッションのクラスについての意見をかいてください。どういう点がよかったですか、あるいは悪かったですか。他に、どんなことをしてほしかったですか。

7. 予習、宿題について

1-1) 予習、宿題の量はちょうどよかった。	5	4	3	2	1
------------------------	---	---	---	---	---

1-2) 2 または 1 をえらんだ人はつぎのどちらですか。○をつけてください。

(おおい・すくない)

2-1) MCチェックにどのくらい時間を使いましたか。

- 1 10分
- 2 20分
- 3 30分
- 4 その他()

2-2) MCチェックは役にたった。 5 4 3 2 1

3-1) NOTES(文法説明書)は毎日どのくらいよみましたか。

- 1 1時間
- 2 45分
- 3 30分
- 4 15分
- 5 その他()

3-2) NOTES(文法説明書)は役にたった。 5 4 3 2 1

4) 自己紹介、スピーチ、ディスカッション準備にどのくらいの時間をつかいましたか。

- 自己紹介()分
- スピーチ()分
- ディスカッション()分

8. その他、このコースをよりよくするために意見・感想をぜひ書いてください。

1-1) 日本語コースからたくさんのことを学んだ。 5 4 3 2 1

1-2) どんなことを学んだか具体的に書いてください。

2) 日本語コースは楽しかった。 5 4 3 2 1

2) 何が楽しかったか具体的に書いてください。

3) 今後このコースをよりよくするために、日本語の先生やTAの学生に対する態度、授業での役割などについて気づいた点を書いてください。

4) 今後、この日本語コースをよりよくするための意見をぜひ書いてください。

どうもありがとうございました。